

連邦犯罪被害者及び証人のための情報と支援

下記の情報はよくある質問に答えるために提供しております。米国の連邦刑事司法制度を分かりやすくする説明も含まれています。

米国検察局には公平かつ正当に事件を起訴する任務があります。あなたのために行っている行動では弁護士と依頼人の関係になりません。そのため、法律相談に応じることができません。米国の利害は時折あなたの被害者としての利害と異なることもあります。

刑事司法の手続

連邦裁判制度の中で事件が進んでいる間、通常起こりえることがあります。

捜査

逮捕

拘留尋問（可能）

米政府は検察官の供述、または証人や証拠の紹介をもって被告人の拘留を要請する。

予備審問

裁判官は被告人を起訴するほど相当な理由があるか否かを判断する。

これは大陪審に起訴されていない場合にのみ行われる。

又は

大陪審

大陪審は非公開の法的手続きの中で証言を聞いた上で公式に起訴することができます。

この段階で逮捕令状を発行することができます。

罪状認否手続き

被告人は裁判所に出頭し、自分に対する容疑を聞きます。

この段階では被告人は通常無罪の答弁をします。

証拠開示手続、司法取引及び申し立て

証拠能力、裁判に係わる問題、又は被告人からの有罪の申し立てに関する審問や判決も含まれる。

公判

政府が原告側の証人を紹介して有罪を証明しようとします。その後、被告側が同じように無罪を証明しようとします。裁判は一般的に陪審による評決で終わります。

量刑の前の調査と報告書の作成

有罪の評決の後、米国保護観察所が裁判長のために判決前報告書を作成します。この段階であなたには被害者影響報告書を提出する権利があります。

判決

控訴

犯罪による精神的な影響

犯罪の被害者や目撃者はよくその経験によって精神的に影響されています。人の反応は多少異なりますが、多くの方は下記のような反応を報告しています。

- ・ 怒り
- ・ パニックや心配の気持
- ・ 悪夢や睡眠パターンの乱れ
- ・ 自信喪失、恥、又は罪悪感
- ・ 起こったことを繰り返して思い出すこと
- ・ うつ病、集中力の欠如
- ・ 自分や自分の家族の身の安全に対するより強い懸念

こういう影響が数多くの方には犯罪の後しばらく続きます。

限定の秘密保持の声明

こちらはあなたの刑事司法手続きに支援しますが、我々は検察官と捜査官で構成するチームのメンバーであることをご了承ください。できるだけ機密情報を保持するようにしておりますが、場合によってそのチームのメンバーに情報を提供しなければなりません。特に自分の身の安全、医療の緊急事態、児童虐待などに関する情報、又は本件の捜査や起訴に重要な情報は提供しなければなりません。